



# UCS-SCU ユーザ インターフェイスの概要

---

この章の内容は、次のとおりです。

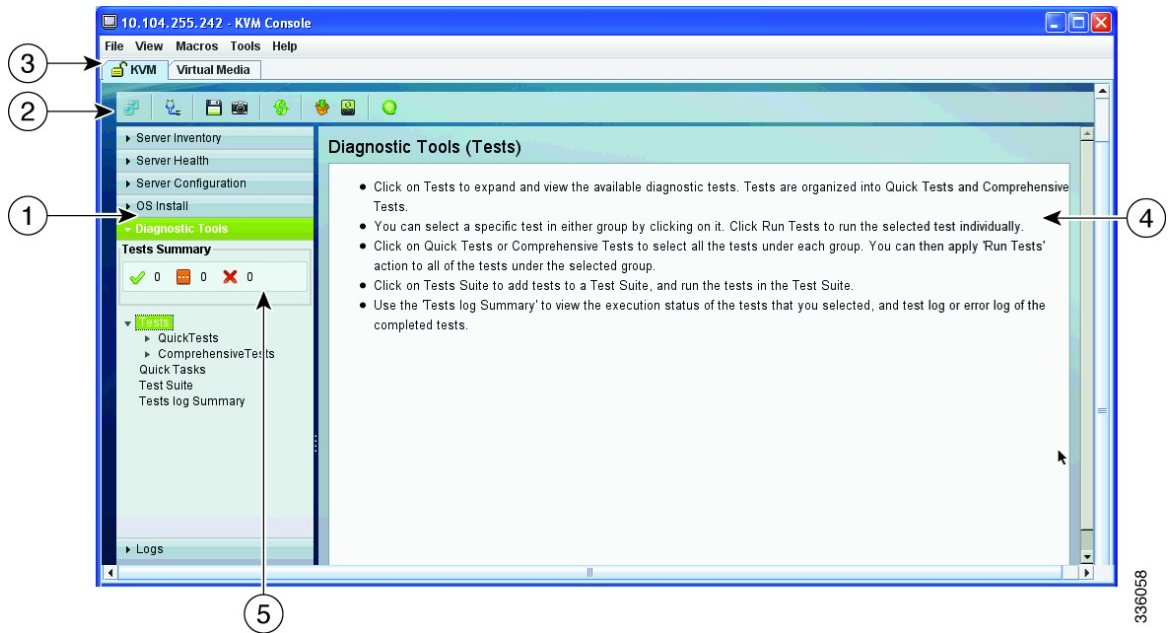
- [ライセンス契約, 1 ページ](#)
- [UCS-SCU グラフィカル ユーザ インターフェイスの概要, 2 ページ](#)
- [ネットワークの設定, 6 ページ](#)
- [サーバヘルス チェックの実行, 7 ページ](#)
- [ログの保存, 7 ページ](#)
- [サーバスナップショットの使用, 7 ページ](#)
- [Cisco Flexible Flash へのイメージの更新, 9 ページ](#)
- [ハイパーバイザパーティションの同期, 11 ページ](#)
- [サーバの再起動, 11 ページ](#)

## ライセンス契約

UCS-SCU が起動したら、最初のインターフェイスは、エンド ユーザ ライセンス契約です。 [I Accept] を選択して [Next] をクリックし、このライセンスに同意します。

# UCS-SCU グラフィカル ユーザ インターフェイスの概要

図 1 : UCS-SCU GUI



この表では、図の吹き出しについて説明します。

1	[Navigation] ペイン
2	ツールバー
3	タブ
4	[Content] ペイン
5	[Tests Summary] ペイン

この表には、各要素の説明を示します。

表 1 : UCS-SCU GUI の要素

[Navigation] ペイン	UCS-SCU のユーザ インターフェイスの左側に表示されます。すべてのナビゲーション ペインの要素の詳細については、表 2 を参照してください。
------------------	---

ツールバー	左上隅に表示され、一連のアイコンがあります。すべてのツールバーアイコンの説明については、表 3 を参照してください。
タブ	UCS-SCU の次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [KVM] : KVM コンソールを開始するには、このタブを使用します。</li> <li>• [Virtual Media] : 仮想メディアにアクセスするには、このタブを使用します。</li> </ul>
Help	表示されたページの状況依存ヘルプを表示するアプリケーションのウィンドウを開きます。
[Content] ペイン	GUI の右側に表示されます。[Navigation] ペインで選択したタブに応じて、異なるページがコンテンツ ペインに表示されます。
[Tests Summary] ペイン	合格したテストの詳細、キュー内のテスト、テストの失敗が表示されます。診断ツールが選択されている場合にだけ表示されます。

この表では、[Navigation] ペインの要素について説明します。

表 2 : [Navigation] ペイン

Server Inventory	サーバの情報およびインベントリを表示します。 次のページへのリンクがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Server Information</li> <li>• Inventory</li> </ul> サーバインベントリの詳細については、 <a href="#">サーバインベントリについて</a> を参照してください。
Server Health	CPU、メモリ、電源、ファン、ストレージ、PCI デバイス、BIOS、および CIMC などのサーバのサブシステムの状態を表示します。 サーバヘルスの詳細については、 <a href="#">サーバヘルスについて</a> を参照してください。

Server Configuration	<p>BIOS のブート順を設定し、サーバの接続されたハードドライブの RAID ボリュームを設定します。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブート順の設定</li> <li>• RAID 設定</li> </ul> <p>サーバ設定の詳細については、<a href="#">ブート順と RAID レベルの設定について</a>を参照してください。</p>
OS Install	<p>完全な無人モードで RHEL、SLES、Windows オペレーティング システムをインストールします。すべてのオンボード コンポーネントの最新のドライバが、オペレーティング システムのインストール時に Tools and Drivers CD またはその他のサポートされている場所から追加されます。</p> <p>OS インストールの詳細については、<a href="#">オペレーティング システムのインストールについて</a>を参照してください。</p>
Diagnostic Tools	<p>サーバ障害を検出するために、さまざまな種類の診断テストを実行できます。</p> <p>診断ツールの詳細については、<a href="#">診断ツールについて</a>を参照してください。</p>
Logs	<p>サーバのシステム ログおよびシステム イベント ログが表示されます。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム ログ</li> <li>• システム イベント ログ</li> </ul> <p>ログの詳細については、<a href="#">ログの表示について</a>を参照してください。</p>

この表では、特定のタスクの実行に使用可能なすべての UCS-SCU アイコンを示し説明します。

表 3 : [Toolbar] ペイン

ツールバー アイコン	名前	機能
	Network Configuration	IPアドレス、DNS、サブネットマスク、および Cisco.com の資格情報を設定します。
	Probe Server	ヘルス チェックを行います
	Save Logs	USB にログを保存します
	Server Snapshot	サーバのその時点のインベントリを取得できます。
	Refresh	サポートされている場合、コンテンツ領域を更新します。
	Update	UCS-SCU、OS のドライバ、および Host Upgrade Utility の最新バージョンをダウンロードできます。
	Hypervisor Sync	一方のメンバの SD カード スロットが破損したときに、RAID 1 仮想ディスクの 2 つのメンバ間でハイパーバイザデータを同期します。  この機能は、Cisco FlexFlash SD カードが両方のスロットに装着されている場合にだけ使用できます。
	Reboot	サーバを再起動します。

# ネットワークの設定

UCS-SCU のネットワーク設定では、IP の詳細、プロキシの詳細、シスコの資格情報などを指定することで、ネットワークを設定することができます。これは一度だけ実行するプロセスであり、ネットワークを設定しない場合、次の手順の実行中に設定するように求められます。

- Cisco Flexible Flash にイメージを更新するとき。（[Cisco Flexible Flash へのイメージの更新](#)、[\(9 ページ\)](#) の項を参照）。
- オペレーティング システムのインストール時に、ネットワーク共有または [cisco.com](#) からドライバをダウンロードするとき。（[インストールドライバ](#)の項を参照）。

ネットワークを設定するには、次の手順を実行します。

## 手順

**ステップ 1** ツールバーの [Network Configuration] ボタンをクリックします。  
[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

a) [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
- [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
- [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
- (任意) [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。

(注) ステップ b に進みます。 [cisco.com](#) からソフトウェアおよびドライバをダウンロードする場合。

b) [Direct Connection to internet] または [Manual Proxy] を選択します。[Manual Proxy] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- [HTTP Proxy Server URL] フィールドに、プロキシ サーバの URL を入力します。最大文字数は 45 文字です。
- [Port] フィールドにポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。デフォルトでは 8080 です。
- [Proxy Server UserName] フィールドに、プロキシ サーバのユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
- [Proxy Server Password] フィールドに、プロキシ サーバのパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。

**ステップ 3** 設定を保存するには、[Configure] をクリックします。

## サーバヘルス チェックの実行

Probe Server 機能では、サーバサブシステムのヘルス チェックを実行できます。[Probe Server] アイコンをクリックすると、サーバヘルス チェックが開始されます。

ヘルス チェックの結果を表示するには、ナビゲーション ペインの [Server Health] タブをクリックします。

## ログの保存

Save Logs 機能を使用してログ ファイルを保存できます。Save Logs を使用する前に、ログ ファイルを保存するための USB フラッシュ ドライブまたは vMedia を挿入する必要があります。

## サーバスナップショットの使用

UCS SCU のユーザーインターフェイスで Server Snapshot 機能を使用して、サーバのその時点のインベントリを取得できます。この機能では、特定の期間内のサーバのインベントリまたはコンポーネントを比較することができます。サーバのスナップショットを開始する前に、サーバに USB フラッシュ ドライブが接続されていることを確認します。フラッシュ ドライブが使用できないと、サーバスナップショットで作成されたログ ファイルは保存されません。

サーバスナップショットを開始すると、UCS SCU はサーバ コンポーネントに関する情報を取得し、サーバの状態を判断するために一連のクイックテストを実行します。サーバスナップショットの取得には約 20 分かかる可能性があります。サーバスナップショット処理が完了すると、ログ ファイルが指定した USB フラッシュ ドライブに保存されます。ワードパッドなどの任意のエディタでこのログ ファイルを開くことができます。期間ごとのサーバインベントリを比較できるように、これらのログ ファイルを特定の場所に保管することをお勧めします。複数のログ ファイルがある場合、サーバインベントリの違いを表示するために、インターネットから入手した比較ツールを使用できます。

サーバのスナップショットを取得するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** サーバに、または vMedia を介して USB フラッシュ ドライブを接続します。このフラッシュ ドライブがないと、サーバスナップショット ログ ファイルを保存できません。フラッシュ ドライブにログ ファイルを保存するための十分なスペースがあることを確認してください。

**ステップ 2** UCS SCU インターフェイスの [Server Snapshot] アイコンをクリックします。

USB フラッシュ ドライブの装着を求めるダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 3** [Yes] をクリックして続行します。  
ダイアログボックスで、ログ ファイルの保存先となる USB フラッシュ ドライブを選択するよう求められます。
- ステップ 4** ドロップダウン メニューから、USB フラッシュ ドライブを選択し、[Save] をクリックします。サーバスナップショット処理が開始されます。この処理には、最大 20~30 分かかります。サーバスナップショット処理の進行状況を示すダイアログボックスが表示されます。この処理中は、サーバでその他のタスクを実行できません。処理中にいつでも、ダイアログボックスの [Cancel] をクリックして、サーバのスナップショット処理をキャンセルできます。
- (注) サーバスナップショット処理中、KVM 接続が終了しても、サーバスナップショット処理は中止されません。KVM コンソールに再度ログインすると、サーバのスナップショット処理がまだ実行中または実行完了したことがわかります。ただし USB フラッシュ ドライブが vMedia 経由で接続されている場合に KVM 接続が終了すると、USB フラッシュ ドライブへの接続が失われるので、サーバスナップショット処理が停止します。スナップショット処理が完了した後にサーバのスナップショット処理が完了したことを示すダイアログボックス メッセージが表示されます
- ステップ 5** [OK] をクリックします。  
ログ ファイルは、USB フラッシュ ドライブに保存されます。ログ ファイルはテキスト ファイルであり、サーバ名とともに保存され、サーバスナップショットが取得された日付が含まれます。たとえば、Server\_C260-BASE-2646\_FCH1234345\_06\_08\_2011 は 2001 年 8 月 6 日に UCS C-260 サーバ用に取得されたサーバスナップショットのログ ファイル名です。
- ステップ 6** 任意のエディタでこのファイルを開きます。
- (注) 一定の期間にわたり同じサーバのインベントリ情報を比較するため、比較のために常に使用できるように、これらのログ ファイルをアーカイブすることをお勧めします

---

サーバのクイックテストの実行中に、サーバのスナップショット機能は、サーバコンポーネントがテストに合格したか失敗したかのみを判断できます。コンポーネントがクイックテストに合格しない理由は特定できません。サーバスナップショット処理のログ ファイルの表示中に、サーバコンポーネントがクイックテストに合格しなかったことに気づいた場合は、Diagnostics Tools の下にあるクイックテストログを確認してください。




---

(注) Diagnostics Tools の詳細については、第 7 章「診断ツールの概要」を参照してください。

---

サーバスナップショット処理のログ ファイルには次の情報が含まれます。

- Chassis Summary
- BaseBoard Summary
- CIMC Summary



- Processor Summary
- Memory Summary
- Storage Summary
- PCI Adapter Summary
- Power Supply Summary
- Server diagnostics Quick Test Results
- Server Probe Data

## Cisco Flexible Flash へのイメージの更新

UCS-SCU、オペレーティングシステムのドライバ、および Host Upgrade Utility (HUU) の最新バージョンをダウンロードするために UCS-SCU GUI を使用できます。これらのイメージは、それぞれのパーティション上のシステムの SD カードに書き込むことができます。

UCS-SCU GUI を使用して Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** ツールバーの [Update] アイコンをクリックします。  
[Cisco Flex Flash Software Update] ダイアログボックスが表示され、パーティションのリストを表示します。
  - ステップ 2** リストの [Cisco Server Configuration Utility] を選択します。  
次のいずれかの方法を使用して SD カードにイメージを更新できます。
    - [cisco.com からの更新](#), (9 ページ)
    - [ネットワークからの更新](#), (10 ページ)
  - ステップ 3** [Apply] をクリックして、イメージを適用します。  
[Cisco Flex Flash Software Update] ダイアログボックスが表示され、テーブルがイメージのバージョンで更新されます。
  - ステップ 4** 残りのパーティションに対してステップ 1 からステップ 4 を繰り返します。
- 

## cisco.com からの更新

cisco.com からの Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco.com] をクリックします。  
ネットワークまたはユーザ資格情報が設定されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。設定されている場合、[Select Updates] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、ステップ 2 に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、ステップ 3 に進みます。
- ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワークの設定の詳細については、3-5 ページの検索「ネットワークの設定」を参照してください。
  - [User Name] フィールドに、cisco.com のユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
  - [Password] フィールドに、cisco.com のパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。
- ステップ 3** 表示される [Select Updates] ダイアログボックスで、ISO イメージの必要なバージョンを選択します。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
- 

## ネットワークからの更新

ネットワークから Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** ネットワークを [From Network] をクリックします。  
ネットワークまたはユーザ資格情報が設定されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。設定されている場合、[Network Location] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、ステップ 2 に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、ステップ 3 に進みます。
- ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワークの設定の詳細については、3-5 ページの検索「ネットワークの設定」を参照してください。
- ステップ 3** 表示された [Network Location] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [User Name] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのログイン名を入力します。
  - [Password] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのパスワードを入力します。
  - [Network Location] フィールドに、ISO イメージファイルが格納されているフォルダのパス名を入力します。
  - [Connect] をクリックします。  
ファイル ダイアログボックスにイメージの一覧が表示されます。

e) .iso イメージファイルを選択します。

f) [Open] をクリックします。

選択したファイルが [Network Location] ダイアログボックスのパッケージ名として表示されます。

**ステップ 4** [OK] をクリックします。

---

## ハイパーバイザパーティションの同期

UCS-SCU は、Cisco FlexFlash SD カードをサポートするサーバ上で、SD カード上に RAID 1 ディスクとして設定されるハイパーバイザ仮想ディスクを同期するためのオプションを提供します。この機能は、Cisco FlexFlash SD カードが両方のスロットに装着されている場合にだけ使用できません。UCS-SCU は、サーバ上の SD カードの有無を検出します。

一方のメンバの SD カードスロットが破損している場合に、このオプションを使用して RAID-1 仮想ディスクの 2 つのメンバ間でハイパーバイザデータを同期します。この同期を開始できるのは、2 枚のカードが検出され、RAID-1 が正常でない（一方のメンバが破損）と判断された場合だけです。

### 手順

---

- ステップ 1** UCS-SCU インターフェイスのツールバーで、[Hypervisor Sync] アイコンをクリックします。ダイアログボックスで、ハイパーバイザ RAID を同期することを確認するよう求められます。
- ステップ 2** [Yes] をクリックします。同期が完了すると、同期の完了を示すダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。[OK] をクリックすると、ツールバーの [Hypervisor Sync] アイコンはグレーアウトされます。
- 

## サーバの再起動

サーバを再起動するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

- ステップ 1** ツールバーの [Reboot] アイコンをクリックします。[Reboot] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2** [Yes] をクリックして再起動します。

サーバが再起動し、UCS-SCU GUI が再表示されます。

---